

「新時代に対応した高等学校改革支援事業（普通科改革支援事業）」

普通科新学科通信

No.3 令和4年10月11日発行 発行 探究科設置準備委員会

前号から文部科学省に提出した実施計画書を掲載しています。今回から「事業の目的等」を2回に分けて掲載します。本号では学際領域学科を設置する本校を取り巻く状況の分析についてをご確認ください。

1 国の状況

- ・令和3年1月の中央教育審議会答申等において、新時代に対応した高等学校教育等の在り方について、高校生の学習意欲を喚起し、可能性及び能力を最大限に伸張するための各高等学校の特色化・魅力化や教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成が提言された。

2 北海道の状況

- ・道教委が令和3年12月に実施した「高校教育に関するアンケート」における、「今後、北海道の普通科の高校はどのような学びがあればよいか」という設問に対し、中学生及びその保護者からSDGs、IoT、AIなど、現代的な諸課題に対する学びについて一定のニーズがあった。
- ・大学受験のための知識等に重点を置いたり、基礎・基本を学ぶことが出来たりする普通科を希望する中学生や保護者が70%程度いる一方、「生徒の個性を生かし豊かな教育活動を実践する高校の個性化・多様化の推進」に期待する声も65%程度存在している。

3 釧路湖陵高校を取り巻く状況

- ・釧路湖陵高校は大正元年、北海道庁立釧路中学校として開校の許可を受けて以来、幾多の先達諸氏の活躍により輝かしい伝統を築き上げ、道内屈指の名門校として現在に至っており、この間、「誠」「愛」「勇」を校訓に、約3万4千名の卒業生が国内外で活躍し、社会に貢献している。
- ・生徒の特徴としては高い就学意欲をはじめ、将来の社会に有意に貢献しようとする意識が高いことが挙げられる。
- ・地域経済の衰退や人口減少などによる社会背景の変化から、生徒の生育環境の変化や、将来の在り方生き方について、明確なビジョンを持たない生徒も見られる。
- ・特に普通科については、中学校卒業生の減少などから、近年入学定員を下回ることもあることから、入学者の学力幅が拡大しており、学習意欲を高め、主体的に学習に取り組むことができるよう、教育課程の改善・充実を図る必要がある。